

令和8年6月23日

第15期レイカディア大学地域貢献活動アンケート調査のまとめ

第15期サポートの会
地域活動部会アンケート委員会

はじめに

レイカディア大学は、滋賀県に在住する社会参加意欲の高いシニアが、明るい長寿社会の創造を目指し仲間と語らう中で新しい知識・教養・技術を身につけ、地域の担い手として活躍できるよう支援している場です。この調査は、レイカディア大学と協働して学生の支援を行う「サポートの会地域活動部会」が、草津キャンパスの卒業生に対し毎年アンケート調査を実施しているもので、今年が11回目となります。調査の目的は、地域で活躍している卒業生の地域貢献活動の実態把握と、レイカディア大学の存在意義を明らかにするために実施しています。

今期の調査は、過去5期(10期以降)の中では最も多い360名を対象に実施し92%の332名からの回答を得ています。その結果、対象者の88%が何らかの地域貢献活動に取り組んでいると回答しており、コロナ禍を契機に一時落ち込んでいた活動者割合もコロナ禍前の水準に回復し、年間の活動時間についても37,000時間以上と回復基調にあります。特に今期調査では、年間の活動時間数についてコロナ禍前までは全体の25%以上を占めていた自治会活動が大きく減少し、スポーツ指導・観光・子育て支援などの活動にシフトしている傾向がみられ、地域貢献活動の多様化の傾向が顕著に表れております。

また、レイカディア大学で学び・体験したことがどのように地域貢献活動として実践されたのかについての調査では、例年どおり8割近くの卒業生が「大学入学を契機に地域貢献活動を始めた」「大学入学を契機に活動が活発化した」と回答しており、大学での学びと体験が地域貢献活動の実践に大きく寄与していることがみてとれます。

1 調査の対象

(1) 今期(15期)対象者数(令和8年4月現在の対象人数*)

○ 対象者数は360名で、前期より14名増加し、過去5年間では最も多い対象者数です。

第43期卒業生[令和5年3月卒業] 120名

第44期卒業生[令和6年9月卒業] 119名

第45期卒業生[令和7年9月卒業] 121名

対象人員計 360名

(注) 対象者数は各期・各学科の卒業者数としています。

(2) 各期の対象者数と調査期間

期	10期	11期	12期	13期	14期	15期
対象者数	332名	334名	325名	322名	346名	360名
調査期間	2019/4/1	2020/10/1	2021/10/1	2023/4/1	2024/4/1	2025/4/1
	～ 2020/3/31	～ 2021/9/30	～ 2022/9/30	～ 2024/3/31	～ 2025/3/31	～ 2026/3/31

(注) 11期、12期はコロナ禍の影響で他の期とは調査期間が異なります。

2 アンケート調査の結果

(1) アンケートへの回答状況

ア アンケートの回答率

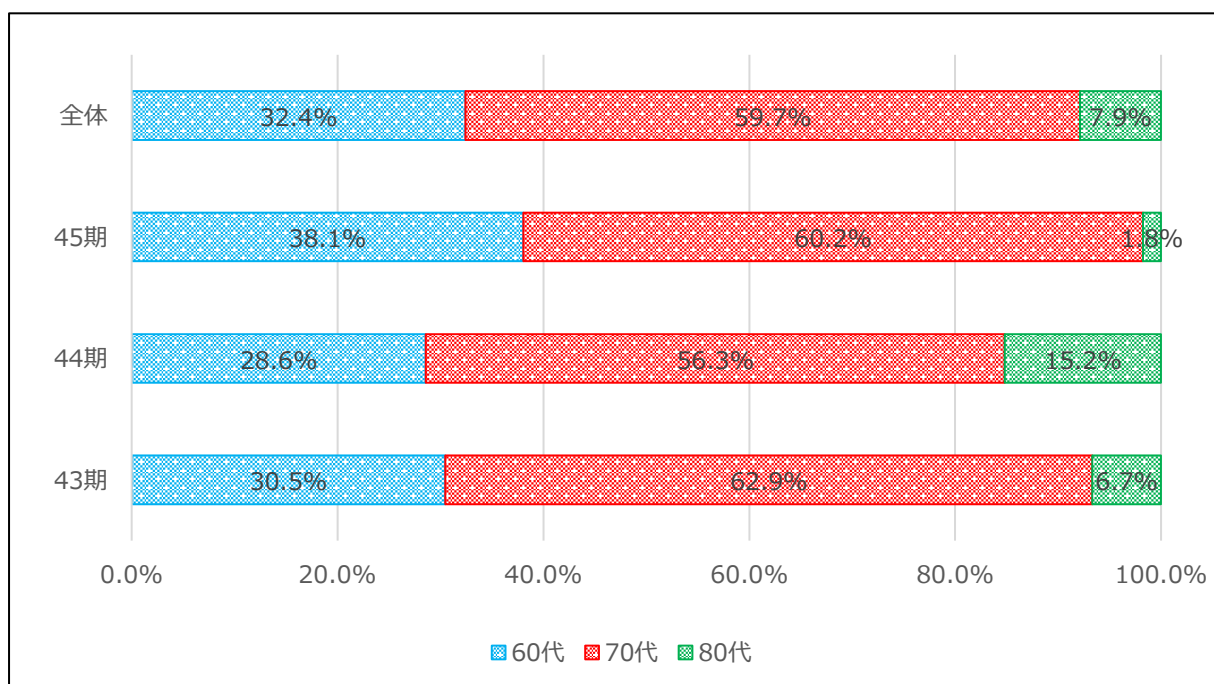
対象者数	回答者数	15 期回答率	14 期回答率
360 名	332 名	92.2%	88.2%

- 対象者数 360 名中回答者数は 332 名で回答率 92.2%。前期より回答率は 4%増加しています。

イ アンケート回答者の年齢分布

- 15 期のアンケート回答者(全体)の年齢分布は「グラフ 1」のとおり、
60 代 32.4% 70 代 59.7% 80 代 7.9%
と前期とほぼ同じような年齢分布となっています。
- 年齢分布から、地域貢献活動の中心は 60 代、70 代であることが見て取れます。

《グラフ 1》アンケート回答者の年齢分布



(2) 活動状況

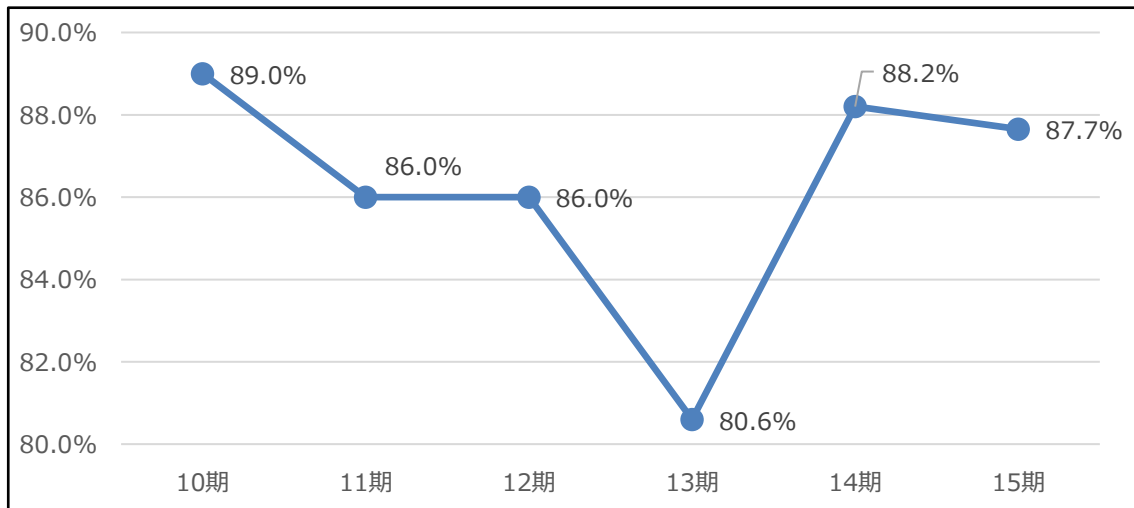
ア 地域貢献活動の活動報告者数

- 「表－1」のとおり、今期のアンケート対象者数 360 名のうち地域貢献活動を実践していると報告した活動報告者は 291 名で前期より 23 名増加、未活動報告者は 41 名で前期より 5 名増加しています。「連絡なし」は 28 名で前期より 13 名減少しています。
- 活動者の割合は、87.7%で前期より 0.5%減少していますが、「グラフ 2」のとおり、コロナ禍の影響による減少からの回復傾向はほぼ維持しております。

【表－１】活動報告者

期 項目	第15期				第14期 実績	第14期との比較	
	43期	44期	45期	合計		前期比	前期差
対象者数(人)	120	119	121	360	346	104.0%	14
活動報告者(人)a	95	94	102	291	268	108.6%	23
未活動報告者(人)b	10	18	13	41	36	113.9%	5
連絡なし(人)c	15	7	6	28	41	68.3%	-13
活動者割合 a/a+b	90.5%	83.9%	88.7%	87.7%	88.2%	99.4%	-0.5%

《グラフ2》活動者割合の推移



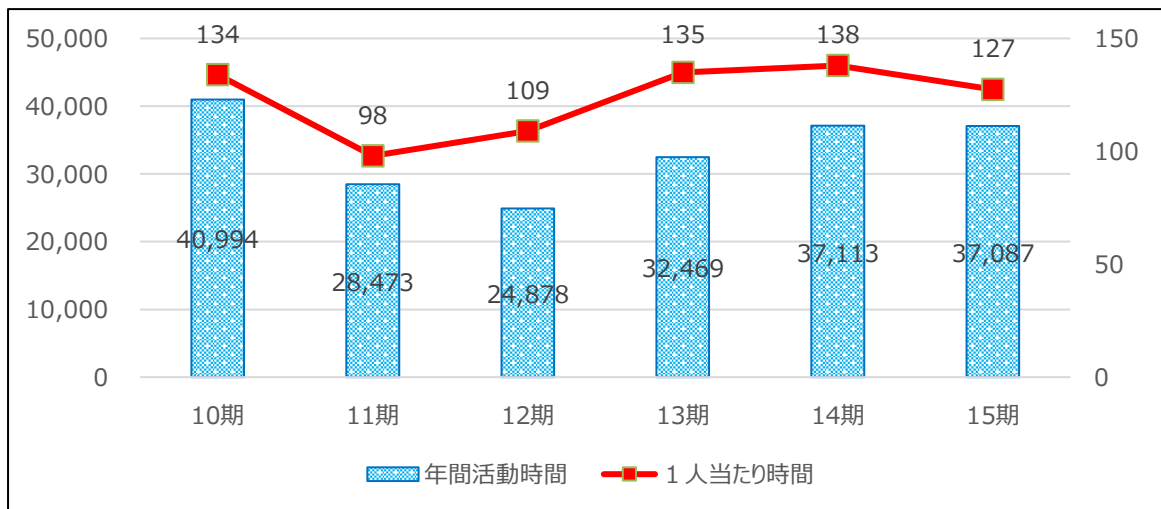
イ 年間活動時間

- 今期の総年間活動時間は「表－２」のとおり 37,087 時間で、ほぼ前期の活動時間水準を維持しており、「グラフ３」のとおりコロナ禍での減少から回復傾向は維持しています。
- ただ、１人あたりの活動時間は 127 時間で前期より 11 時間減少しており、活動報告者数が前期より増加していることが原因と考えられます。

【表－２】年間活動時間

期 項目	第15期				第14期 実績	第14期との比較	
	43期	44期	45期	合計		前期比	前期差
総年間活動時間d	14,123	13,522	9,443	37,087	37,113	99.9%	-26
1人当たりの 年間活動時間 d/a	149	144	93	127	138	92.4%	-11

《グラフ3》年間活動時間の推移



ウ 地域貢献活動の活動分野別活動時間

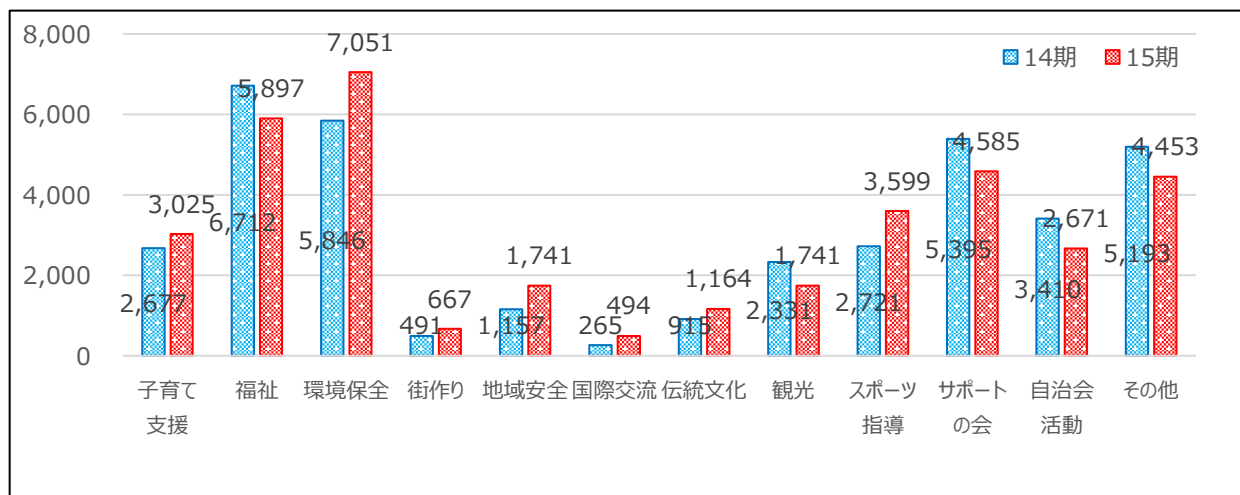
(ア) 活動分野別の活動時間

- 地域貢献活動について12の分野に分けてそれぞれの活動時間を集計すると「表－3」、「グラフ4」のとおり、今期は最も活動時間が多い分野が「環境保全」次に「福祉」となっており、前期と1・2位は逆転しますが活動時間の多い分野は同じ傾向がみられます。
- また、「グラフ4」のとおり、子育て、環境保全、地域安全、スポーツ指導等は前期に比べて増加していますが、福祉、観光、自治会活動、サポートの会等は減少しています。

【表－3】活動分野別の活動時間

分野	子育て支援	福祉	環境保全	街作り	地域安全	国際交流	伝統文化	観光	スポーツ指導	サポート	自治会活動	その他	合計
時間数	3,025	5,897	7,051	667	1,741	494	1,164	1,741	3,599	4,585	2,671	4,453	37,087
構成比	8.2%	15.9%	19.0%	1.8%	4.7%	1.3%	3.1%	4.7%	9.7%	12.4%	7.2%	12.0%	100.0%

《グラフ4》活動分野別活動時間の前期比較



(イ) 活動分野別の活動時間の推移

○ 活動分野別について「表－４」のとおり12分野を7分野に集約し、コロナ禍前の10期からの活動時間の推移について見てみました。

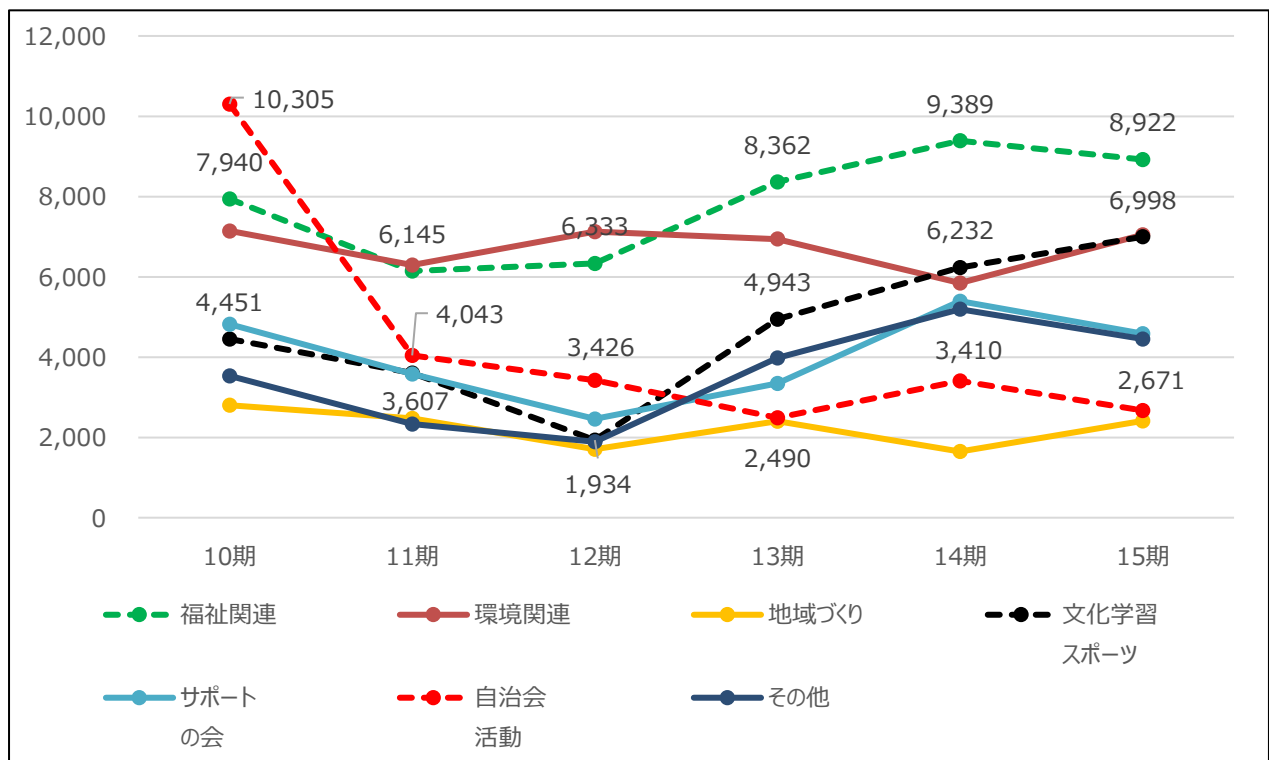
○ その結果、「グラフ5」のとおり、10期では1万時間以上活動していた自治会活動が15期では約2,600時間と4分の1程度に減少しており、自治会活動離れがみられます。

○ 15期で最も活動時間が多かった環境関連、街づくり・地域安全活動の地域づくり、サポートの会については、10期と比較しても大きな変化は見られません。その一方で、福祉関連及び文化学習スポーツは増加しており、特に、スポーツ指導は3.7倍、観光は1.8倍、子育て支援は1.6倍に増加しており活動分野の多様化がみられます。

【表－４】

活動分野の集約(12→7)		
7分野	12分野	
福祉関連	①子育て支援	②福祉
環境関連	③環境保全	
地域づくり	④街づくり	⑤地域安全
文化学習スポーツ	⑥国際交流	⑦伝統文化
	⑧観光	⑨スポーツ指導
サポートの会	⑩サポートの会	
自治会活動	⑪自治会活動	
その他	⑫その他	

《グラフ5》 活動分野別活動時間の推移



エ 学科別の分野別活動時間の比較

○ 「表－５」のとおり、活動分野7分野(「表－４」参照)について各学科の活動時間を見てみました。その結果、各学科とも共通して子育て支援、福祉といった福祉関連の活動時間が多くなっています。

○ また、園芸学科・びわこ環境学科は環境関連、陶芸学科・健康づくり学科はサポートの会(在校生のサポート)、地域文化学科は文化学習スポーツの活動時間が多くなっています。このことから、レイカディア大学で学んだ各学科の知識・体験がその後の地域貢献活動に効果的に活かされ、卒業生がその分野で各活動に積極的に取り組んでいることが分かります。

【表－５】 学科別分野別活動時間

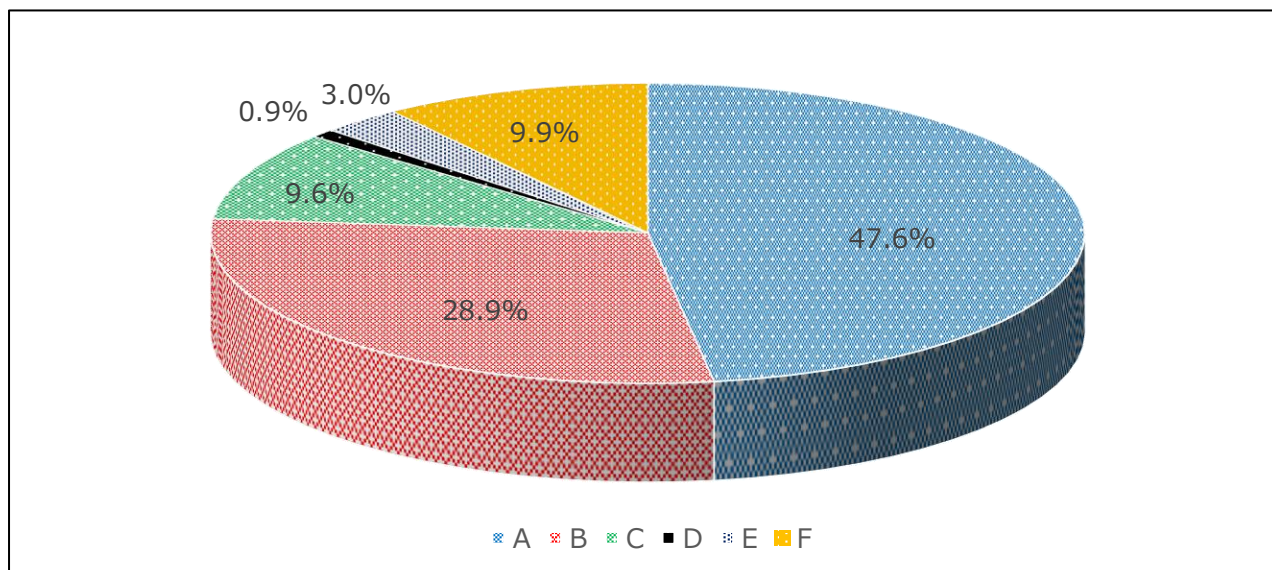
	園芸A	比率 %	園芸B	比率 %	陶芸	比率 %	地域文化	比率 %	健康づくり	比率 %	びわこ環境	比率 %	合計	比率 %
福祉関連	2,147	37	974	17	727	24	2,331	21	1,508	28	1,235	21	8,922	24.1
環境関連	1,559	27	1,253	22	266	9	962	9	498	9	2,513	42	7,051	19.0
地域づくり	69	1	122	2	30	1	1,392	12	538	10	257	4	2,408	6.5
文化学習 スポーツ	900	15	1,878	33	272	9	2,989	27	696	13	263	4	6,998	18.9
サポートの会	631	11	803	14	635	21	1,186	11	909	17	421	7	4,585	12.4
自治会活動	168	3	288	5	573	19	314	3	379	7	949	16	2,671	7.2
その他	370	6	365	6	493	16	2,012	18	839	16	374	6	4,453	12.0
合計	5,843	100	5,683	100	2,996	100	11,186	100	5,367	100	6,012	100	37,087	100

※ 網掛けは各学科の活動比率が高い分野です。

(3) 地域貢献活動の学びとその実践状況

- レイカディア大学で学び・体験したことが地域貢献活動として実践されたのかを測るため A～F の設問(「表－７」参照)について回答を求めました。
- 「グラフ６」「表－６」のとり、半数近くが「A」(入学前は活動していなかったが大学での学びと体験を契機に活動を始めた)と回答しており大学での学びが地域貢献活動に取組む大きな契機になっていることが分かります。また、30%近くが「B」(入学後活動内容・回数が増えた)と回答しており大学での学びが地域貢献活動の活発化に大きく寄与していることが分かります。
- また、この傾向は「表－６」のとり前期とも共通しており、レイカディア大学での学びが継続的に地域貢献活動の担い手を送り出していると考えられます。

《グラフ６》 大学での地域貢献活動の学びとその実践状況



【表－6】 大学での学びと各活動の実践状況の前期比

期 活動区分	15期		14期	
	人数	構成比	人数	構成比
A	158	47.6%	173	54.1%
B	96	28.9%	80	25.0%
C	32	9.6%	29	9.1%
D	3	0.9%	5	1.6%
E	10	3.0%	9	2.8%
F	33	9.9%	24	7.5%
合計	332	100.0%	320	100.0%

【表－7】 活動区分の内容

活動区分	活 動 区 分 の 内 容
A	入学前は、活動していなかったが、大学での学び・体験を契機に、活動を始めた
B	入学前から活動している。入学後、活動内容・回数が増えた
C	入学前から活動している。入学後も、活動内容・回数はほとんど変わらない
D	入学前後から活動しているが、体調その他で回数が減った
E	入学前後から活動しているが、諸般の事情で活動していない
F	地域貢献活動は、特には行っていない

おわりに

滋賀県におけるボランティア活動の行動者率は 24.2%で全国第 4 位と高く、種類別では「安全な生活のための活動」「障害者を対象とした活動」「子どもを対象とした活動」が全国でもトップクラスの行動者率を誇っており、その主力は 65 歳から 74 歳とされています。【「統計だより」(令和 5 年(2023 年)2 月 第 823 号より)】

今期の「地域貢献活動アンケート調査」では、約 90%の卒業生がボランティア活動(地域貢献活動)に取組み、レイカディア大学で学んだ知識・体験を生かして多様な分野で活動し、大学入学を契機として活動開始・活発化していることが明らかになっています。このことからレイカディア大学の卒業生・在校生の活動が滋賀県における活発なボランティア活動を支える大きな力になっていると自負しているところです。

サポートの会による「地域貢献活動アンケート調査」が在校生・卒業生によるボランティア活動の更なる活発化の一助になることを期待し、今後ともアンケート調査が継続して実施されるよう引き継いでまいりたいと考えています。

最後に、地域貢献活動アンケート調査に際してご協力頂いた 43・44・45 期の卒業生の皆様、各科のアンケートの取りまとめをして頂いた皆様には心より感謝申し上げます。

以 上